

6 寒冷についての技術対策

(1) 畜種共通

【畜舎環境・換気対策】

- ・寒くなると畜舎を閉め切りにしがちですが、空気がこもると家畜にとってはストレスになり、衛生的にも好ましくありません。日中の暖かい時間を見計らって家畜に直接風が当たらないように、畜舎全体の空気をゆっくりと入れ替えましょう。
- ・幼畜は寒さに弱いため、低温対策が必要です。幼畜の飼養場所が寒くないか、隙間風が入ってこないか確認しましょう。
- ・窓などの目張りやついたての設置により、隙間風が幼畜に直接当たらないように工夫しましょう。

【飼養管理対策】

- ・給水器を点検し凍結防止対策を行って、きれいな水を充分飲めるようにしましょう。

(2) 酪農

【環境対策】

- ・子牛の飼養場所ではヒーターを利用するなどして保温に努めましょう。ただし、ヒーターを利用する場合には火事や子牛が火傷しないよう気を付けましょう。

【飼養管理対策】

- ・成牛は寒さに強いですが、気温が低い時には飼料を乾物として 10~20%増給してみましょう。
- ・ふんや尿で汚れ、濡れている敷料は体温を低下させます。特に子牛の飼養場所では子牛の体が乾いた状態を維持するために乾いた敷料を厚く敷くなどの工夫をしましょう。
- ・子牛については、カウジャケット（子牛用の防寒着）やネックウォーマーを使用するなど、状態に合わせて防寒対策をしましょう。また、冷たい水ではなく、ぬるま湯を給与することも有効です。

(3) 肉牛

【環境対策】

- ・子牛の飼養場所ではヒーターを利用するなどして保温に努めましょう。ただし、ヒ-

ターを利用する場合には、火事や子牛が火傷しないよう気を付けましょう。

【飼養管理対策】

- ・寒さとともに飲水量が低下し、尿石症が発生しやすくなります。予防するために、塩化アンモニウムの給与、粗飼料の増加、カルシウムの飼料添加、タンパク質含有が高い飼料の給与を避ける、ビタミンAの給与を行うとともに、飲水を温める、給水器を清掃するなど飲水量の増加を図るなどの対策を行いましょう。
- ・ふんや尿で汚れ、濡れている敷料は体温を低下させます。特に子牛の飼養場所では子牛の体が乾いた状態を維持するために、乾いた敷料を厚く敷くなどの工夫をしまししょう。
- ・子牛については、カウジャケット（子牛用の防寒着）やネックウォーマーを使用するなど、状態に合わせて防寒対策をしまししょう。また、冷たい水ではなく、ぬるま湯を給与することも有効です。

（４）養豚

【飼養管理対策】

- ・冬の寒さは、母豚の泌乳能力の低下や子豚の哺乳能力の低下、ひいては子豚の発育不良の原因になります。
- ・豚舎内に複数の温湿度計を設置し、定期的に温湿度を確認してみまししょう。
- ・豚がどのような状態で過ごしているかよく観察し、人間の高さではなく、豚の高さで温度や換気等の環境を調整しまししょう。
- ・子豚の管理温度は、離乳後最初の1週間は28～30℃、その後1週間に2℃ずつ下げ、最終的に20～22℃になるよう維持しまししょう。湿度の適正範囲は65～75%です。
- ・ガスブルーダーはコルツヒーターに比べ、湿度保持には有効ですが、使用する際には定期的な点検・清掃を行い事故防止に努めまししょう。
- ・母豚の快適温度は子豚に比べて低いので、子豚が温まるエリアを確保した上で換気等を怠らないように注意しまししょう。

（５）養鶏

【飼養管理対策】

- ・鶏は寒さに比較的強いと言われていますが、防寒対策が不十分だと産卵低下や呼吸器病が発生します。カーテン等を用いることにより、鶏体熱の放散や冷たい風が舎内に吹き込むのを防ぐ対策を行いまししょう。
- ・鶏ふんを堆積した状態で鶏舎内を密閉すると、アンモニアガス等の発生により呼吸

器病の発生を誘発し、産卵低下を引き起こしますので、鶏舎内のふんの搬出はこまめに行うようにしましょう。

- 寒さで産卵率が低下しないように、良質な飼料を十分に与えましょう。
- 雛を飼育している場合には、温度による飼料の摂取量の変化に注意しましょう。